模試と同傾向の出題　～ベネッセ・駿台模試より～

日本史Ｂ

センター試験・第４問　問３

問 3　下線部ⓑに関連して，近世の貨幣について述べた文として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 21

① 丁銀はおもに東日本，小判はおもに西日本で通用した。

② 小判は，取引のたびに両替商で重さを量って使用する貨幣であった。

③ 元禄時代，幕府は収入を増やすため貨幣改鋳を行った。

④ 松平定信は，南鐐二朱銀を鋳造して，貨幣制度の統一を試みた。

第１回ベネッセ・駿台マーク模試・第４問　問４

問４　下線部ⓓに関連して，江戸時代の貨幣に関して述べた文として誤っているものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 26

① 江戸時代の小判は，枚数・額面で取引される計数貨幣であった。

② 西日本では，取引や決済に主として銀貨が使用されていた。

③ 永楽通宝に加えて，清から輸入された寛永通宝が流通した。

④ 17 世紀後半には，自らの領内で，藩札を発行する藩もあらわれた。

今回のセンター試験の日本史Ｂ第４問問３では、江戸幕府の貨幣通用に関連し、近世の貨幣について問われた。解答に際しては、東日本と西日本での金遣いと銀遣い、秤量貨幣と計数貨幣、元禄期の貨幣改鋳など、基本的な内容を整理して理解できているかが必要であった。

第１回ベネッセ・駿台マーク模試の第４問問４でも同様に江戸時代の貨幣を扱った。ここでも当時の国内での通用の特徴を同じ要素を用いて出題した。金貨は枚数・額面で取引される計数貨幣で、銀貨は重さで取引される秤量貨幣である点や東日本には佐渡などの金山があることから金貨が使用され、西日本には石見大森などの銀山があることから銀貨が使用されるなどの教科書内容を反映したうえ、関連して地域で並行して通用した藩札についても取り上げている。

いずれの設問も授業や教科書で学んだ基本的な内容を整理できているかが重要である。このような設問を解くことによってそうした整理が促されるため、多くの類題に取り組んでおきたい。復習の際は、正答の選択肢が「なぜ、正答なのか」だけでなく、「誤答選択肢のどこが誤りで、どうすると正しい内容になるのか」という点について、教科書や授業時のノートを見直して確認する習慣を定着させたい。